

2018年9月5日

東京電力ホールディングス株式会社
代表執行役社長 小早川智明 様

原子力民間規制委員会・東京
代表 岩田俊雄
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-6-2
ダイナミックビル5F
E-mail mkiseii.t@gmail.com

福島第一原発事故加害者東京電力への質問書

当委員会は、7月に過酷事故対策とされる、格納容器への事前の水張りとコリウムシールドの設置についての質問を提出し、貴社から回答をいただいています。その回答は、常識を外れた、驚くべき内容でしたので、東電本社前に集まられた一般市民の皆さんと共有したいと思います。

① 貴社の回答では、原子炉が破損するおそれがある場合、破損前から格納容器に注水を行う、とのことです。

質問①: 誰が、何を指標に、原子炉底抜けのおそれがあると判断するのですか？ 事故の進展は速く、福島第一事故では水位低下から原子炉底抜けまで4～5時間でした。どのタイミングで、事前の水張りをするのでしょうか？

前回、水位計について質問しましたが、貴社は、「水位不明」と判断されたら満水処置を行う、という不明な回答でした。要するに、事故時に正確な水位は計測できないということによろしいですか？

② 貴社の回答では、熔融炉心が格納容器に落下したときには、事前の水張りができているので熔融炉心は冷却され、コンクリートの侵食は最大10mmに抑えられる、とのことです。

質問②: 熔融炉心によるコンクリートの侵食量は解析手法によって異なります。違う条件では、高温の熔融炉心が、コリウムシールドの下部を回りこんでドライウェルサンプに流入し、20cmしかないドライウェルサンプの下の床面を突き抜けて、格納容器の外に出てしまうのではないのでしょうか？

③ 貴社の回答では、水蒸気爆発は種々の実験結果から発生しないと考えるが、万が一水蒸気爆発が発生しても、格納容器が破損することはない、とのこと。そして、万が一の水蒸気爆発を小さくするために、注水と排水を調整して水位を制御するそうです。

質問③: 多くの人が指摘しているように、格納容器への事前の水張りは自殺行為です。巨大な水蒸気爆発が起きて、破局に至るのでと、誰もが直感的にわかります。メルトダウンに向かっている最中に、運転員は何時間もかけて格納容器に事前の水張りをする事になります。運転員の心境を想像してみてください。原子炉底抜けした高温の熔融炉心が水と接触しても水蒸気爆発しないという科学的根拠は何ですか？ 実験結果が示しているのは、その実験条件では、水蒸気爆発は起こりにくかったというだけにすぎません。また、格納容器は、そもそも水蒸気爆発を想定した設計ではないと思われます。水蒸気爆発しても格納容器は破損しないというのは、都合のよい条件設定のもとでの願望でしかないのではないですか？ 万が一の水蒸気爆発を小さくするために水位の調節をさせられる運転員のプレッシャーは、はかり知れないと思いますが、貴社はどうお考えでしょうか？

労働安全衛生法と労働安全衛生規則は、労働者の安全を守るため、熔融高熱物と水との接触を厳しく禁じています。事前の水張りは、労働安全衛生法と同規則違反ではないですか？

以上について、9月26日(水)までにEメールでご回答ください。

以上